

第59回文化財防火デー火災防御訓練が開催されました

昭和24年1月26日の法隆寺金堂の出火で、貴重な壁画が焼失したことをきっかけに、文化財保護の強化徹底のため、毎年1月26日は「文化財防火デー」に定められています。以来、この日を中心に全国各地で文化財火災防御訓練が開催され、文化財愛護に関する意識の高揚が図られています。

町でも、文化財防火デー火災防御訓練を1月20日に観音寺山門で開催し、檀家の方々による文化財搬出訓練や地区住民と消防団、消防署による消火訓練を行いました。統監を務めた前後町長は「文化財は国民共有の貴重な財産。火災には十分注意し、大切な共有財産を後世へ確実に引き継いでいかなければならない」と訓練を総括しました。

貴重な文化財を後世へ伝承するため、これからも町民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。



文化財搬出訓練の様子



消火訓練にあたる消防団員ら

人気作家・藤本ひとみさんによる講演会のお知らせ

NHK大河ドラマ「八重の桜」の主人公である山本八重(後の新島八重)を描いた小説「幕末銃姫伝」「維新銃姫伝」の作者、藤本ひとみさんの講演会(「仮称」藤本ひとみからのメッセージ～八重から学ぶこと～)を3月30日(土)、学びいなで開催します。

藤本さんは、いち早く新島八重を題材にした小説を書き下ろし、戊辰戦争や幕末の激動の時代を力強く生きた八重の姿を発信してきました。八重の生き方から学んだ人生観を、福島県への応援メッセージとして講演します。

日程など、詳しい内容は3月号の学びの泉に掲載します。人気作家による貴重な講演会ですので、ぜひご家族揃ってお越しください。※入場には整理券が必要です。整理券をご希望の方やお問い合わせは学びいなまで ☎(72)0180



藤本さんによる新島八重を描いた著書

藤本ひとみさんのプロフィールと主な著書

長野県飯田市出身。12年間の公務員生活を経て、少女小説家としてデビュー。第4回コバルト・ノベル大賞を受賞。数々の少女少女漫画の原作も手がけたが、その後、フランス史を扱った歴史小説や犯罪心理小説へ活動の場を移した。近年では会津を中心とした幕末の歴史小説なども手がけている。綿密な取材による歴史への深い造詣には定評がある。フランス政府観光局親善大使を務め、現在は名誉委員。アカデミー・ドゥ・カスレ名誉委員、ナポレオン史研究学会の日本人初委員。主な著書に「ブルボンの封印」「ハプスブルク宝剣」「離婚まで」「天狗の剣」「壬生烈風」など。



藤本ひとみさん

町図書室から新着図書のお知らせ

2月は芥川賞を受賞した「abさんご」(黒田夏子)、直木賞の「等伯上・下巻」(安部龍太郎)、「何者」(朝井リョウ)をはじめ、本屋大賞ノミネート作品の「ふくわらい」(西加奈子)、「屍者の帝国」(円城塔)などの人気作を入荷予定。その他一般図書では「syunkon カフェごはん2」

(山本ゆり)、「池上彰の学べるニュース6」(池上彰)、「3歳までの子育ての教科書」、児童書は「かいけつゾロリ」なぞのスパイとチョコレート(原ゆたか)、「新種発見! こびと大研究」(なばたとしたか)、「黒魔女さんが通る! 15巻」などを入荷予定です。

映画「うまれる」上映会を開催します

猪苗代町絆づくり実行委員会では、映画「うまれる」の上映会を開催します。この作品は、命を見つめる4組の夫婦の物語を通して、自分たちが生まれてきた意味や家族の絆、命の大切さ、人とのつながりを考えるドキュメンタリー映画です。妊娠・出産・育児、流産・死産、不妊、障害など「うまれる」ということを幅広く捉えることで、親子関係やパートナーシップ、そして「生きる」という事を考える内容となっています。

●日時：3月20日(水・祝)

①午後2時～ ②午後5時～(上映時間104分)

●会場：学びいな ●定員：各回400人(すべて自由席)

●料金：大人1,000円、子ども(高校生以下)無料

4歳以上の子どもは整理券が必要。3歳以下は整理券不要ですが、保護者と同じ席でご覧ください。

●チケット取り扱い：学びいな(電話予約可) ☎(72)0180

◆乳幼児と一緒にご覧いただきますので、話し声や泣き声などについて、ご理解、ご容赦をお願いします。



新春恒例「初釜茶会」が開かれました

新春恒例、青木宗寛社中の「初釜茶会」は1月27日、学びいなで開かれ、約80人が訪れました。昨年までは会員のみでの開催でしたが、茶道の雰囲気や気軽に味わってもらおうと、一般の方々にも開放し、学びいなの和室に設けられた茶席で、お菓子と抹茶が振る舞われました。参加者たちは、上品な甘さの和菓子と心を込めてたてられた香り高い抹茶を味わいながら、新春の雰囲気を存分に満喫しました。



抹茶を楽しむ参加者ら

休館日などのお知らせ

学びいなと町図書室の2月、3月の休館日は、2月25日(月)、3月3日(日)、25日(月)となります。加えて、町図書室は蔵書点検のため2月26日(火)から3月10日(日)までは図書室の返却のみ、3月11日(月)から15日(金)までは休ませていただきます。

2/24(日)	図書貸出し最終日
2/25(月)	学びいな休館日
2/26(火) 3/2(土)	図書返却業務のみ
3/3(日)	学びいな休館日
3/4(月) 3/10(日)	図書返却業務のみ
3/11(月) 3/15(金)	蔵書点検のため休室
3/16(土)	通常業務

教育委員会コラム 第三十三回

白虎隊士の生き残り飯沼貞吉の孫、飯沼一元氏が、一昨年9月、京都で講演した際、長州藩士榎崎頼三のひ孫に当たる松葉玲子氏が駆け付け、「頼三が会津の飯沼家母宛てに『貞吉を預っている』旨の密書を送った」と聞かされた。さらに玲子氏は「このことは誰にも言ってはいけないと言われて育った」と語った。

榎崎頼三は、捕虜となった貞吉を長州に連れ帰り、屋敷に住ませ、「サダさー」と呼んでいたと伝わっている。一元氏は始め貞吉の長州養育説を否定したが、松葉証言も出て、長州養育説を確信したという。(12月22日付福島民報コラムより)

飯沼貞吉は飯盛山自刃の際、死に切れずにいたところを、会津藩士某の妻に助けられ蘇生し、後に通信省(郵政省の前身)技官となり仙台などで勤務し生涯を全うした。戊辰戦争後、150年近くを経ても、会津と長州の間にはまだわだかまりが残るとされているが、陽の目を見ないドラマも数多く存在するようだ。

一元氏はその著書の中で、飯盛山自刃についても、落城を誤認したとする従来の説を否定し、隊士が議論の末、武士の自分を明らかにするための自刃であったとする説を紹介している。

大河ドラマ「八重の桜」の放送が始まって、第1回目を見たがなかなか面白かった。今後の好調な展開を期待したい。(土屋)